

2021/05/30

## ヨハネの福音書 講解メッセージ⑤2

### 『神の栄光とは何?』 ヨハネ 17:1-10

「イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:1-3)

イエス様は、このように父なる神に祈りました。「時」とは十字架の時、「子の栄光」とは、十字架のみわざの頂点である復活のことです。神は三位一体ですから、父なる神の栄光と子の栄光は同じです。そのイエス様が、なぜ「十字架の復活の栄光を現してください」と祈ったのでしょうか。

イエス様は、救われた者に永遠のいのちを与える権威を持っておられます。それは、神の呼びかけに応答した者(救われた者)に永遠のいのちを持っていることを自覚させるということです。永遠のいのちは事実であることを示すため、イエス様ご自身が十字架に架かり、復活して見せる必要があったのです。こうして、彼らがイエス様を信じるようになることが神の栄光なのです。

そもそも人間は神のいのちによって造られた存在です(創世記 2:7)。この神のいのちが、体が収集した情報を認識し判断をくだす物差しとなって、人間は考えたり、意識したりすることができるのです。この神のいのちは「魂」とも言われます。神のいのちである魂に、体が収集した情報が触れることで生じた意識が「精神」です。「精神」は「霊」、あるいは「生きる魂(創世記 2:22)」とも言われます。生きる神のいのちを持っているということです。つまり、私たちが生きるためには、魂と体の両方が必要で、私たちが生きているのは、神から貸し出された命と体を持っているからということになります。

私たちに貸し出されている神のいのち(魂)は、神の思いを発信する装置でもあります。私たちは潜在意識の中で神が発信する思いを24時間聞いているのです。

体は、当初、今のような朽ちる体ではなく、神の思いを直接確認できる体でした。しかし、悪魔のしわざで死が入り込んで、私たちの体が有限性になり、永遠性の神を認識できなくなってしまったため、神の思いを確認できなくなってしまったのです。今、私たちは、潜在意識で神の思いを知っているのに、現実には確認できない状態です。神がいることはわかっているけれど、誰が神かがわからず、愛というものはわかっているけれど、何が愛かわからず、自由があることはわかっているけれど、それを体験することはできず、永遠があることはわかっているけれど、永遠がわかりません。つまり私たちは、神の物差しを持っ

ているけれど、現実には確認できない体になっているのです。この現状が、不安を生みだしているのです。

神様はアダムにこのままだとあなたは土に帰ると言いました。体が朽ちて土に帰ると、情報を収集する体がなくなるので、魂は神に返却されます。その結果、精神は存在できなくなり、私たちは存在しなくなります。このような状態にある私たちを、神様は「死人」と呼んでおられます。ですから、私たちが永遠に生きるために必要なのは、魂ではなく、魂の入れ物である体です。それが永遠のいのちなのです。この永遠のいのちをもって生きることを教えるために、イエス様はこの地上に来られました。

永遠のいのちは、この体では確認できなかったことが確認できます。それは、「神」です。神はいないと言う人は、「確認できないから」と言います。なぜ私たちが「神はイエス・キリストだ」と言えるのか、それは、霊のからだを着せられて、神を知ることができるようになったからです。これが神の栄光です。

### ■霊のからだを受け取るとは

「ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」（I コリント 15 : 35）  
しかし神は、みこころに従って、それにからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。（I コリント 15:38）

種とは、貸し出された神のいのち、つまり「魂」のことです。「魂にそれぞれのからだを与える」とは、将来の話ではありません。原文には、すでに与えられていること書かれているからです。

「卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらせられ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらせられ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらせるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」  
（I コリント 15:43-44）

「魂にそれぞれのからだをお与えになる」も「肉のからだで生まれ、霊のからだによみがえらせる」も、原文では現在形です。つまり、今、新しいからだを着せられていて、よみがえているということです。

「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」（I コリント 15:52）

ここまでの文章は原文では現在形でしたが、「ラッパが鳴ると……私たちは変えられる」の箇所は、未来形で書かれています。つまり、私たちは今着せられている霊のからだによって、

肉体の死がおとずれた瞬間、さなぎが脱皮するように、一瞬のうちに霊のからだ機能が始めることになるのです。ギリシャ語の原文は、現在形と未来形に分けて書かれていますから、そのように理解すべきです。(ギリシャ語は、真理を言い表すときに未来のことであっても現在形を使う場合があるので、このような訳になっていると想像できますが、わざわざ現在形と未来形に分けて書かれているということは、分けて考えるべきです。) 霊のからだは目に見えないため、これから受け取るのだと理解されがちですが、イエス・キリストは、あなたがイエスを信じているなら、もう霊のからだは着せられていると言われました。今私たちは、霊のからだだけではなく、霊的なものが見えなくなっているため、神様が土台となって支えられて生きていることも、外なる人が衰えても内なる人は日々新しくされていることも見えません。ですから、これらのことを知る唯一の物差しが、イエス・キリストを信じられるかどうかということなのです。これが神の福音の核心部分です。つまり、あなたがイエスを信じるのが神の栄光を現しているのです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」(ヨハネ 5:25)

神は、死の体しか持っていない私たちに、私たちの内側から、潜在意識に24時間語りかけています。もし神が私たちの外側から語りかけるのであれば、神の言葉を聞く機会がなかった人や理解できなかった人は救われないことになり、幼子や重度の障害を持った方は救われないことになってしまいます。しかし神は体を通してではなく、私たちの内側から魂を通して呼びかけられます。体の制約に関係なく、神の言葉を受け取ることができるのです。それは、潜在意識の世界なので、本人には意識できません。しかし、救われると、意識のほうに変化が起こります。神の言葉を聞いたときに、信じるようになるのです。その確認を明らかにするためにイエス様は来られたということです。ですから、こうあります。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」(ヨハネ 5:24)

体を介して神の言葉を聞き、イエス様を信じている者は、永遠のいのちを持っていて、死からいのちに移った状態にあるのです。つまり、あなたはすでに永遠のいのちを持った状態にあるということです。

「信仰は聞くことから始まり、口で告白して救われる」とは、救いの自覚に至ったということです。それは、神が死人に呼びかけをしてくださったことから始まっています。人には潜在意識と顕在意識とがあり、神様は死人の潜在意識に語り続け、その語りかけに応答して潜在意識の中で救われた者が救いを自覚することが、神の栄光が現れたということになるのです。

## ■イエス様が現した栄光

「あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。」(ヨハネ 17:4-5)

この時、イエス様が現した栄光とは、弟子たちがイエス・キリストを信じるようになったということです。そして、これから復活を通して、永遠のいのちというものがさらに輝くようにと祈っておられます。またここでも父なる神とイエス・キリストは三位一体であり、世界が存在する前から共に栄光を現す存在であったことが語られています。

神であるイエス様が、人としてこの地上に来られた第一の理由は、私たちのからだは神の思いを確認できないからです。そのため、私たちの体でも神の思いを確認できるように、イエス様は来てくださったのです。私たちが知っていながら確認できずにいた神の思いを、イエス様は言葉で表現してくださいました。誰が神なのかわからずにいましたが、イエスが神だと知ることができました。神は愛だと知っていながら確認できずにいましたが、イエス様がそれを教えてくださったのです。それによって、魂が喜び感動を覚えるのです。

二番目は、私たちに希望を示すためです。私たちは、制約されている自分の姿を見て、こんな自分が愛されるはずがないと希望を持つことができないだけでなく、肉体の死や自分の罪深さに希望を持てずにいます。イエス様が、そんな私たちと同じ死の体を持ってこられたのは、復活することによって、この状態にあっても希望があると示すためです。

三番目は、神と人とを仲介するためです。イエス様が、「御子、人の子」と呼ばれるのは、人の代表として生きたということを表しています。私たちは神の子だからです。三位一体の神に、上下関係があるわけではありません。

こうして、私たちが求めていた神はイエス・キリストだということを明らかにするために、イエス様は来られたのです。

「わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。」(ヨハネ 17:6)

神が私たちに与えた神の名はイエス・キリストです。

「いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。」(ヨハネ 17:7-8)

私たちの魂は神の思いを常に語っています。その思いを私たちが理解できる言葉にするため、イエス様がこの地上に来てくださったのです。イエス様が神の言葉を人々にわかるように翻訳したともいえます。それを彼らが受け入れることができたのは、彼らが救われていたからです。

聖書を通して私たちが深い感銘を受けるのは、これまでわからずに魂が聞いていた神の思いが、「こういうことだったのか」と理解できるからです。イエス様が天に帰られた今、その理解を助けてくださるのが聖霊様です。

「わたしは彼らのためにお願いします。世のためではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。わたしのものはみなあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。」(ヨハネ 17:9-10)

この言葉をイエス様は私たちに対しても適用されます。私たちは何も持っていないとしても、イエス様のものはすべてあなたのものだから使いなさい、そして、あなたの罪は私のものだからすべて私によこしなさいと言っておられるのです。また、この御言葉から、三位一体の神に上下関係はないということもわかります。

イエス様が彼らによって栄光を受けたとは、弟子たちがイエス・キリストを信じたことで、イエス様は栄光をお受けになったということです。私たちがイエス・キリストを信じられるということは、永遠のいのちを持つということであり、霊のからだを着せられて、死から命に移されたということです。これが、神の栄光が現れたということです。

ですから、神の栄光のために働くとは、福音を語ることです。救われているのに、まだ神の言葉を知らない大勢の人たちに、御言葉を届けて収穫することです。あなたは自分で労苦したわけではない実を収穫すると神様は言われましたが、まさにそのとおりで、神が救った人を収穫していくにすぎません。私たちが救いに導くのではなく、御言葉を届けることで、彼らは自分の中にあった神の思いに気づくのです。そして、イエス・キリストを告白することで、その人は救いの自覚に至ります。

私たち自身も、自分の働きによって救われたわけではありません。ただ神様がとらえてくださったので、御言葉を信じ、イエス・キリストを信じて、救いを自覚できるようになりました。それが神の栄光です。私たちの周りには、神様が救ってくださったのに、まだ救いの自覚に至らない人達がたくさんいます。恐れずに御言葉を語っていきましょう。